

## 編集後記

今年度のメインイベントは何とんでも ICAS2001 FIA Symposium でしょう。Asianalysis VI と並行して行われましたが、日本の分析化学会、研究懇談会が国際的に高い評価を受け、またアジアのリーダーとしても注目されたことと確信しております。S-15 の FIA Symposium については報告しましたが、Professor Dasgupta を初め国外から多くの研究者が招待され、討論も積極的に行われ、有意義なシンポジウムであったと思います。11月23~25日に開催された日本分析化学会第45年会では FIA の発展に貢献して頂きました石井大道先生（元名古屋大工）、大倉庸甫先生（元九州大薬）、故黒田六郎先生（元千葉大工）、桐栄恭二先生（元岡山大理）そして Professor J. Ruzicka (Univ. Washington) が日本分析化学会名誉会員になりました。また、本研究懇談会委員長の本水昌二先生（岡山大理）が日本分析化学会賞を受賞されました。学会賞の受賞は最近では河野拓治先生（前筑波大化学系）、小熊幸一先生（千葉大工）が受賞されておりますが、大変おめでたいことです。ICAS2001 のバンケット開催時に黒田先生への上記名誉会員証の授与が行われましたが、9月に亡くなられたとの知らせを受けました。JAFIA の創立当時から会の運営と FIA の学術的発展に大きく貢献、牽引していただき、今日の JAFIA が存在していると深く感謝いたします。先生のご冥福をこころよりお祈りいたします。

今年度の学術賞、進歩賞、論文賞については本誌に収録されております。おめでとうございます。授賞式は熊本年会で行われました。論文賞は初めてですが、JFIA にも奮ってご投稿ください。巻頭言は Prof. Dasgupta と石井幹太先生にお願いしました。ICAS 前の暑い時でしたが、第4回 FIA 技術講習会が行われました。この時の様子を受講者の2名の方に書いていただきました。板橋、手嶋、樋口の3先生による実技指導は大変好評と伺いました。写真も掲載されており、雰囲気は伝わることでしょう。本号は総説、原著論文が全て英文論文でしかも国外からの投稿が増える傾向にあります。Analytical Sciences も同じ傾向にあります。JFIA を大きく育てる意味でも会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。12月に Chiang Mai (Thailand) で 11th ICFIA が開かれます。Chair person は Prof. Gary D. Christian で Prof. Kate Grudpan がオーガナイザーを務め、JAFIA は co-host になっております。約25名が参加申し込みをしていると聞いております。この内容は Vol. 19, No. 1でお伝えします。今年も残すところわずかですが、来年も JAFIA と JFIA、そして皆さんの飛躍の年になりますようお祈りいたします。

JFIA 編集委員長  
酒井忠雄